

リレーエッセイ

四国ミロク会計人会 木村 幸博

空から見た瀬戸内国際芸術祭

私はグアムで体験セスナ遊覧飛行をした後、小型飛行機の操縦に興味を覚え、56歳から英語の勉強を始め、2年かけてFAAのSINGLE ENGINE LAND（単発エンジン陸上型）の免許を取得しました。

アメリカには、15万機の小型機があると言われてます。パイロットは最低でも、15万人以上いることになります。17歳から免許を取ることができるのです。かたや日本はといえば、機体は400機前後でしょうか。

空港もそれに応じて、アメリカには1万カ所はあると思いますが、日本は100カ所前後です。この圧倒的な数字の違いは、単に国土の広さや新幹線の有無の差だけではありません。

今の世界の主要な通信手段は、固定電話から電話線の要らない携帯電話に移行しました。飛行機もそれと同じで、地上の連続した坂を越え谷を越え、沼地を越える必要のある鉄道網よりは、空港という2500ft[※]あまりの設備のほうが、全国隈なく容易に作れ、アクセスしやすいのです。

その結果、国土の全域を隈なく利用でき、国中が発展し、人口も分散するのです。その典型がアメリカ。英国、仏国に比べ後進国であったアメリカの交通手段として発展し、今や世界一の飛行機王国であることは周知の事



実です。この流れに、中国、ブラジル等のBRICS各国が続きます。

「発展」という高速道路を、逆方向に突っ走るのが、まさに日本の空の行政です。空の安全を名目に、地域の空港を廃止し、使用を止め、順次航空機産業、パイロットの養成教育機関を衰弱化させているのです。

航空機が無くなれば事故は起きません。騒音も事故もない静かな日本になります。日本の航空機産業が衰退し、国の発展が後回しでいいのなら。

そんな残念な思いを機体に乗せ、瀬戸内海国立公園の上空2000ft[※]を飛びました。表紙の写真と本記事内の写真は、瀬戸大橋と瀬戸内国際芸術祭2013の上空からの拝観です。見えますか？ 赤い芸術品。

ご希望の方は瀬戸内海の上空にお連れします。木村会計事務所ホームページ (<http://www.kimura-tax21.com/>) よりお申込み下さい。（営業行為はしておりません。あくまでも楽しみです。航空法24条他）

※ft=フィート (1ftは約30cm)

表紙の写真

「セスナ機から望む瀬戸大橋」
 (操縦:木村 幸博、撮影:松田 哲也)

四国と本州を結ぶ重要な交通インフラとして、また、瀬戸内

海のシンボルとして地元の人々に親しまれている瀬戸大橋は、1988年4月10日の開通から今年で25周年を迎えました。鉄道道路併用橋で、瀬戸中央自動車道の通行車両は現在までに累計約1億3380万台、JR瀬戸大橋線の利用者は延べ約2億2500万人に上ります。写真は、木村幸博先生が操縦するセスナ機から松田哲也先生が撮影した、雄大な瀬戸大橋の姿です。

月刊 税理士事務所 Channel

通巻382号

- 発行 株式会社ミロク情報サービス
〒160-0004 東京都新宿区四谷4-29-1
TEL. 03-5361-6309 (広報・IRチーム)
- 発行人 是枝 周樹
- 編集企画 ミロク会計人会連合会広報委員会
ミロク会計人会事務局、広報・IRチーム
- 配信制作 東方通信社
- 印刷 株式会社シナノ
- 購読申込 株式会社ミロク情報サービス
- 禁無断転載

※本誌に掲載されている会社名及び製品名は、各社の商標または登録商標です。